3　果樹植物成長調整剤

樹種	薬剤名	【対象品種等】使用目的	使用方法				注意事項
			希釈倍数	使用時期	使用方法	回数	
ナシ	ジベレリンペースト	【日本なし】 ・果実肥大促進 ・熟期促進	(原液)	満開30～40日後	幼果1果当たり20～30㎎を果梗部へ塗布	1回	・薬剤が果面に付着すると薬害が出るので、果実に付着しないように注意して塗布する。 ・定植後の新梢伸長促進では、全花除去した短果枝の新梢基部に塗布する。 ・ジベレリンを含む農薬の総使用回数は2回以内(果梗部塗布は1回以内、新梢基部塗布は1回以内)。
		【日本なし】 ・新梢伸長促進	(原液)	満開予定日10日前～満開40日後	1枝当たり100㎎を新梢基部へ塗布	1回	
		【日本なし】 (苗木) ・新梢伸長促進		萌芽期～新梢新長期	頂芽基部塗布または新梢基部塗布	3回以内	
	ストッポール液剤	【赤なし】 (ただし、王秋を除く) ・収穫前落果防止	2,000～3,000倍	収穫開始予定日の14～7日前	立木全面散布 200～300ℓ/10a	1回	・樹勢の弱い樹では、早期落葉する恐れがあるので、樹勢を考慮して使用する。 ・展着剤は、加用しない。 ・散布後に降雨があっても、再散布はしない。 ・ジクロルプロップを含む農薬の使用回数は1回。
		【青なし】 ・収穫前落果防止	1,500～2,000倍				
		【王秋】 ・収穫前落果防止	2,000～3,000倍	収穫開始予定日の30～7日前			
ブドウ	アグレプト液剤 (ストレプトマイシン液剤) 〔RAC F:25〕	・無種子化	1,000倍 (200ppm)	満開予定日の14日前～開花始期	散布 200～700ℓ/10a	1回	・本剤は殺菌剤である。 ・展着剤は、加用しない。 ・ストレプトマイシンを含む農薬の使用回数は1回。 ・ジベレリン液に添加して使用する場合、第1回ジベレリン処理時に本剤を添加して花房浸漬処理し、第2回ジベレリン処理(単用)を必ず行う。
					花房散布 30～100ℓ/10a		
					花房浸漬		
				満開予定日の14日前～満開期	花房浸漬 (第1回目ジベレリン処理と併用)		
温州ミカン	フィガロン乳剤	・間引摘果	1,000～2,000倍	満開20～50日後で生理落果のある時	立木全面散布 葉先からしたたりはじめる程度 250～500ℓ/10a	1回	・目的以外の植物に対してもごく微量で影響があるので、周辺の植物にはかからないようにする。 ・気象や生育の条件によって反応が大きく異なるので、使用に当たっては薬剤に添付された効果・薬害等の注意事項を熟読して理解し、適切に使用する。 ・エチクロゼートを含む農薬の使用回数は4回以内(1,000倍希釈散布は2回以内)。

樹種	薬剤名	【対象品種等】 使用目的	使用方法				注意事項
			希釈倍数	使用時期	使用方法	回数	
キウイフルーツ	フルメット液剤	・果実肥大促進	ホルクロルフェニュロン 1～5ppm	開花後 20～30日	果実浸漬 又は 果実散布	1回	・処理時期が早い場合には、変形果の発生、生理落果の増加、過剰肥大に伴う糖度低下を生じるおそれがある。 ・果頂部に薬液がたまると変形果発生につながるので、処理後、棚の針金等をゆすり、過量の薬液を振い落とす。 ・ホルクロルフェニュロンを含む農薬の使用回数は1回以内。
リンゴ	ストッポール液剤	・収穫前落果防止	1,000～ 1,500倍	収穫開始予定日の 25～7日前	立木全面散布 300～600ℓ/10a	2回 以内	・効果を安定させるために2回散布する場合は、10日程度間隔をあける。 ・展着剤は、加用しない。 ・散布後に降雨があっても、再散布はしない。 ・ジクロルプロップを含む農薬の総使用回数は2回以内。

※これ以降のブドウに関する薬剤の登録内容は、本県の推進品種である「シャインマスカット」、「藤稔」、「ブラックビート」、「サニールージュ」、および「巨峰」、「デラウェア」についてのみ記載する。

ブドウ[無核栽培] ジベレリン粉末

・降雨やフェーン現象などによる異常乾燥の心配が無い日を選んで処理する。
・着粒が安定するとともに果粒の肥大が促進されるので、着果過多（過密着）による裂果発生の恐れがある。

品種	使用目的	使用方法				注意事項
		希釈倍数	使用時期	使用方法	回数	
サニールージュを除く巨峰系4倍体品種 **※「藤稔」、「ブラックビート」、「巨峰」が該当**	・無種子化 ・果粒肥大促進	第1回目： ジベレリン 12.5～ 25ppm	第1回目： 満開時～ 満開3日後	第1回目： 花房浸漬	2回以内 （但し、降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内）	・ジベレリンを含む農薬の総使用回数は3回以内。但し降雨等により再処理を行う場合は合計5回以内。
		第2回目： ジベレリン 25ppm	第2回目： 満開10～ 15日後	第2回目： 果房浸漬		
		ジベレリン 25ppm	満開3～ 5日後 （落花期）	花房浸漬 （ホルクロルフェニュロン10ppm液に加用）	1回 （但し、降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内）	
	・無種子化	ジベレリン 12.5～ 25ppm	満開時～ 満開3日後	花房浸漬 （満開10～15日後にホルクロルフェニュロンによる果粒肥大促進処理を行うこと）		
	・果房伸長促進	ジベレリン 3～5ppm	展葉3～ 5枚時	花房散布 30～100ℓ/10a	1回	
サニールージュ	・無種子化 ・果粒肥大促進	第1回目： ジベレリン 12.5～ 25ppm	第1回目： 満開時～ 満開3日後	第1回目： 花房浸漬	2回以内 （但し、降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内）	
		第2回目： ジベレリン 25ppm	第2回目： 満開10～ 15日後	第2回目： 果房浸漬		
		ジベレリン 25ppm	満開3 ～5日後 （落花期）	花房浸漬 （ホルクロルフェニュロン10ppm液に加用）	1回 （但し、降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内）	
	・無種子化	ジベレリン 12.5～ 25ppm	満開時～ 満開3日後	花房浸漬 （満開10～15日後にホルクロルフェニュロンによる果粒肥大促進処理を行うこと）		
	・果房伸長促進	ジベレリン 3～5ppm	展葉3～ 5枚時	花房散布 30～100ℓ/10a	1回	
	・着粒密度低減 ・果粒肥大促進	第1回目： ジベレリン 25ppm	第1回目： 満開予定日 14～20日前	第1回目： 花房浸漬 （ホルクロルフェニュロン3ppm液に加用）	2回以内 （但し、降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内）	
		第2回目： ジベレリン 25ppm	第2回目： 満開10～ 15日後	第2回目： 果房浸漬		

ブドウ[無核栽培] ジベレリン粉末 （続き）

品種	使用目的	使用方法				注意事項
		希釈倍数	使用時期	使用方法	回数	
2倍体欧州系品種 **※「シャインマスカット」が該当**	・無種子化 ・果粒肥大促進	第１回目： ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25ppm	第1回目： 満開時～ 満開３日後	第1回目： 花房浸漬	2回以内 (但し、降雨等により再処理を行う場合は合計４回以内)	・ジベレリンを含む農薬の総使用回数は3回以内。但し、降雨等により再処理を行う場合は合計5回以内。
		第２回目： ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25ppm	第2回目： 満開１０～ １５日後	第2回目： 果房浸漬		
		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25ppm	満開３～ ５日後 （落花期）	花房浸漬 (ﾎﾙｸﾛﾙﾌｪﾆｭﾛﾝ10ppm液に加用)	1回 (但し、降雨等により再処理を行う場合は合計２回以内)	
	・果房伸長促進	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 3～5ppm	展葉３～ ５枚時	花房散布 30～100ℓ/10a	1回	
デラウェア	・無種子化 ・果粒肥大促進	第１回目： ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 100ppm	第1回目： 満開予定日 約１４日前	第1回目： 花房浸漬	2回以内 (但し、降雨等により再処理を行う場合は合計４回以内)	・ジベレリンを含む農薬の総使用回数は2回。但し、降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内。
		第２回目： ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 75～ 100ppm	第2回目： 満開 約１０日後	第2回目： 果房浸漬 又は 果房散布 30～100ℓ/10a		
		第１回目： ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 100ppm	第1回目： 満開予定日 １８～１４日前	第1回目： 花房浸漬 (ﾎﾙｸﾛﾙﾌｪﾆｭﾛﾝ1～5ppm液に加用)		
		第２回目： ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 75～ 100ppm	第2回目： 満開 約１０日後	第2回目： 果房浸漬 又は 果房散布 30～100ℓ/10a		

ブドウ[有核栽培] ジベレリン粉末

品種	使用目的	使用方法				注意事項
		希釈倍数	使用時期	使用方法	回数	
巨峰	・果粒肥大促進	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ 25ppm	満開１０～ ２０日後	果房浸漬	1回 (但し、降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	・ジベレリンを含む農薬の使用回数は1回以内。但し、降雨等により再処理を行う場合は合計２回以内。

※品種や有核、無核など栽培方法によって登録内容が異なるため、製品に添付された取扱説明書の内容を必ず確認する。

ブドウ[無核栽培] フルメット液剤

品種	使用目的	使用方法				注意事項
		濃度	使用時期	使用方法	回数	
サニールージュを除く巨峰系4倍体品種 **※「藤稔」、「ブラックビート」、「巨峰」が該当**	・着粒安定	ﾎﾙｸﾛﾙﾌｪﾆｭﾛﾝ 2～5ppm	開花始め～満開前 又は 満開時～満開3日後	開花始め～満開前に使用する場合 花房浸漬 (ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ第1回目及び第2回目処理は慣行)	1回 (但し、降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	・ホルクロルフェニュロンを含む農薬の総使用回数は3回以内。但し、降雨等により再処理を行う場合は合計5回以内。 ・ジベレリン以外の薬剤との混用は避ける。
				満開時～満開3日後に使用する場合 ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝに加用 花房浸漬 (ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ第2回目処理は慣行)		
	・果粒肥大促進	ﾎﾙｸﾛﾙﾌｪﾆｭﾛﾝ 5～10ppm	満開10～15日後	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝに加用するか又はホルクロルフェニュロン単用で処理 果房浸漬 (満開時～満開3日後のジベレリンによる無種子化処理は慣行)		
	・無種子化 ・果粒肥大促進	ﾎﾙｸﾛﾙﾌｪﾆｭﾛﾝ 10ppm	満開3～5日後 (落花期)	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝに加用 花房浸漬		
	・花穂発育促進	ﾎﾙｸﾛﾙﾌｪﾆｭﾛﾝ 1～2ppm	展葉6～8枚時	花房散布		
サニールージュ	・着粒安定	ﾎﾙｸﾛﾙﾌｪﾆｭﾛﾝ 2～5ppm	開花始め～満開前 又は 満開時～満開3日後	開花始め～満開前に使用する場合 花房浸漬 (ジベレリン第1回目及び第2回目処理は慣行)		
				満開時～満開3日後に使用する場合 ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝに加用 花房浸漬 (ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ第2回目処理は慣行)		
	・果粒肥大促進	ﾎﾙｸﾛﾙﾌｪﾆｭﾛﾝ 5～10ppm	満開10～15日後	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝに加用するか又はホルクロルフェニュロン単用で処理 果房浸漬 (満開時～満開3日後のジベレリンによる無種子化処理は慣行)		
	・無種子化 ・果粒肥大促進	ﾎﾙｸﾛﾙﾌｪﾆｭﾛﾝ 10ppm	満開3～5日後 (落花期)	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝに加用 花房浸漬		
	・着粒密度低減 ・果粒肥大促進	ﾎﾙｸﾛﾙﾌｪﾆｭﾛﾝ 3ppm	満開予定日14～20日前	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝに加用 花房浸漬 (ジベレリン第2回目処理は慣行)		
	・花穂発育促進	ﾎﾙｸﾛﾙﾌｪﾆｭﾛﾝ 1～2ppm	展葉6～8枚時	花房散布		

ブドウ[無核栽培] フルメット液剤(続き)

品種	使用目的	使用方法				注意事項
		濃度	使用時期	使用方法	回数	
2倍体欧州系品種 **※「シャインマスカット」が該当**	・着粒安定	ﾎﾙｸﾛﾙﾌｪﾆｭﾛﾝ 2～5ppm	開花始め～満開前 又は 満開時～満開3日後	開花始め～満開前に使用する場合 花房浸漬 (ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ第1回目及び第2回目処理は慣行)	1回 (但し、降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	・ホルクロルフェニュロンを含む農薬の総使用回数は3回以内。但し、降雨等により再処理を行う場合は合計5回以内。 ・ジベレリン以外の薬剤との混用は避ける。
				満開時～満開3日後に使用する場合 ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝに加用 花房浸漬 (ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ第2回目処理は慣行)		
	・果粒肥大促進	ﾎﾙｸﾛﾙﾌｪﾆｭﾛﾝ 2～10ppm	満開10～15日後	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝに加用 果房浸漬 (ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ第1回目処理は慣行)		
		ﾎﾙｸﾛﾙﾌｪﾆｭﾛﾝ 5～10ppm	満開10～15日後	果房浸漬 (ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ第1回目処理は慣行)		
	・無種子化 ・果粒肥大促進	ﾎﾙｸﾛﾙﾌｪﾆｭﾛﾝ 10ppm	満開3～5日後(落花期)	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝに加用 花房浸漬		
	・花穂発育促進	ﾎﾙｸﾛﾙﾌｪﾆｭﾛﾝ 1～2ppm	展葉6～8枚時	花房散布		
デラウェア (施設栽培)	・ジベレリン処理適期幅拡大	ﾎﾙｸﾛﾙﾌｪﾆｭﾛﾝ 1～5ppm	満開予定日18～14日前	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝに加用 花房浸漬 (ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ第2回目処理は慣行)		・ホルクロルフェニュロンを含む農薬の総使用回数は2回以内。但し、降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内。 ・ジベレリン以外の薬剤との混用は避ける。
	・着粒安定	ﾎﾙｸﾛﾙﾌｪﾆｭﾛﾝ 5～10ppm	開花始め～満開時	花房浸漬		
	・果粒肥大促進	ﾎﾙｸﾛﾙﾌｪﾆｭﾛﾝ 3～5ppm	満開約10日後	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝに加用 果房浸漬 (ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ第1回目処理は慣行)		
		ﾎﾙｸﾛﾙﾌｪﾆｭﾛﾝ 3～10ppm		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝに加用 果房浸漬 (ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ第1回目処理は慣行)		
デラウェア (露地栽培)	・ジベレリン処理適期幅拡大	ﾎﾙｸﾛﾙﾌｪﾆｭﾛﾝ 1～5ppm	満開予定日18～14日前	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝに加用 花房浸漬 (ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ第2回目処理は慣行)		
	・着粒安定	ﾎﾙｸﾛﾙﾌｪﾆｭﾛﾝ 2～5ppm	開花始め～満開時	花房浸漬		
		ﾎﾙｸﾛﾙﾌｪﾆｭﾛﾝ 5ppm		花房散布		
	・果粒肥大促進	ﾎﾙｸﾛﾙﾌｪﾆｭﾛﾝ 3～5ppm	満開約10日後	ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝに加用 果房浸漬 (ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ第1回目処理は慣行)		
		ﾎﾙｸﾛﾙﾌｪﾆｭﾛﾝ 3～10ppm		ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝに加用 果房浸漬 (ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ第1回目処理は慣行)		

※品種や有核、無核など栽培方法によって登録内容が異なるため、製品に添付された取扱説明書の内容を必ず確認する。

ブドウ[有核栽培] フルメット液剤

品種	使用目的	使用方法				注意事項
		濃度	使用時期	使用方法	回数	
巨峰系4倍体品種 **※「藤稔」、「ブラックビート」、「サニールージュ」「巨峰」が該当**	・果粒肥大促進	ホルクロルフェニュロン 5～10ppm	満開１５～２０日後	果房浸漬	1回 (但し、降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	・ホルクロルフェニュロンを含む農薬の総使用回数は1回。但し、降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内。 ・ジベレリン以外の薬剤との混用は避ける。

ブドウ フラスター液剤

品種	使用目的	使用方法				注意事項
		希釈倍数	使用時期	使用方法	回数	
巨峰系４倍体品種[巨峰・ピオーネを除く] **※「藤稔」、「ブラックビート」、「サニールージュ」が該当**	・着粒増加 ・新梢伸長抑制	500～800倍	新梢展開葉７～１１枚時(開花始期まで)	散布 100～150ℓ/10a	2回以内	・重複散布にならないように注意する。 ・他の農薬との混用は避け、単用で使用する。 ・多品種の混植園やブドウ園同士が近接している場合、登録のない品種に薬液がかからないように注意する。
巨峰(露地栽培)		1,000倍		散布 300ℓ/10a		
巨峰(露地栽培) 巨峰(施設栽培)		500～800倍	新梢展開葉７～１１枚時(開花始期まで)	散布 100～150ℓ/10a	2回以内	
シャインマスカット	・新梢伸長抑制	500倍	満開１０～２０日後 但し、収穫60日前まで	散布 150ℓ/10a		
		1,000倍		散布 300ℓ/10a		
	・着粒増加	1,000～2,000倍	新梢展開葉７～１１枚時(開花始期まで)	散布 100～150ℓ/10a		
デラウエア (施設栽培) (露地栽培)	・新梢伸長抑制	800～1,000倍	新梢展開葉７～11枚時(開花始期まで)	散布 100～150ℓ/10a	1回	
デラウエア (露地栽培)		1,500～2,000倍		散布 200～250ℓ/10a		